

[1行目~3行目は空行とする] (以降, 空行は9ポイント, MS明朝とする)

[4行目と5行目] **題名は14ポイント, MSゴシック, ボールド体, 行の中央に書く.**  
[副題は6行目] **(副題は11ポイント, MSゴシック, ボールド体, 行の中央に書く)**

[1行あける] (題名, 副題は1行あたり140mm以内とし, 適宜改行する)

[英文題名は11pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **Atomization by Means of Hole Nozzle**

[英文副題は11pt, Times New Roman, Bold Face, 行の中央に書く] **(Theory of Atomization)**

[1行あける]

[著者名は10pt, MSゴシック, 行の中央に書く]

京都 太郎\*

東京 花子

[英文著者名は9pt, Times New Roman, 括弧付きで和文著者名の真下に書く]

(Taro KYOTO)

(Hanako TOKYO)

[著者所属は9pt, MSゴシック, 英文著者名の真下に書く]

京都大学

東京大学

[英文所属は9pt, Times New roman, 括弧付きで著者所属の真下に書く]

(Kyoto Univ.)

(The Univ. of Tokyo)

[2行あける]

In the previous paper, the authors presented several experimental results on the characteristics of atomization by means of a hole nozzle. ....

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

(両端15mmインデント, 9ポイント, Times New Roman)

.....  
.....  
.....

Keywords: Atomization, Hole Nozzle, Exciplex Method, Spray Angle, ....., Diameter  
(キーワードは, 英文アブストラクトの次行に5~10語を記載する)

[2行あける]

### 1. はじめに

[1行あける]

章番号および章名は, **10ポイント, MSゴシック, ボールド体**で行の中央に書く. 第2章以後は, 章番号および章名の前後と本文の間は1行あける. ただし, 章や節が原稿用紙の最上段になった場合は, 前の文章と1行あけず, 第1行目に書く. 本文は, 9ポイント, MS明朝で書く.

[1行あける]

#### 1.1 節名が2行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章と1行あけ, 行の左端より1こまあけて節番号を書き, 1こまあけて節名を**10ポイント, MSゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から1こまあけて書く. 新しい段落は, 1こまあけて書く. 文章の区切りには読点としてはカンマ「,」を用い, 句点としては, ペリオド「.」を用いる(括弧を付して補足説明する場合, この例のように, 本文の句点の前に括弧を挿入し, 括弧内の文章の最後は句点を付さない).

句読点は, 1こま分を使用するが, 行の最後の場合に限り, 追い込んでよい(禁則処理).

文献番号は, <sup>(1),(2)</sup>(カンマで区切る)または<sup>(9)-(10)</sup>のように上付文字で書く.

#### 1.1.1 項名が2行以上にわたる場合の書き方は, この例による

前の文章との間は空行を設けなくて, 行の左端より1こまあ[1行程度あける]

けて項番号を書き, 1こまあけて項名を**9ポイント, MSゴシック, ボールド体**で書く. 本文は次の行から1こまあけて書く. 項以下の区分は, (a), (b), ...などとし, その書き方は項の場合に準じる.

[1行あける]

### 2. 図, 表の書き方

[1行あける]

本文と図, 表の間は1行以上あける. また, 図番, 図題は図の真下中央に配置し, 表番, 表題は表の真上中央に配置する.

図題, 表題は英語で記述する. また, 図番, 表番は, それぞれ Fig.1, Fig.2, ...および Table 1, Table 2, ...のように通し番号として, 9ポイント, Times New Roman で書く. 本文で引用する際, 図1, 図2, ..., 表1, 表2, ...とする.

また, 図, 表はできるだけ下側および右段に寄せて配置すると, 見栄え良く仕上がる.

[1行あける]

### 3. 式の書き方

[1行あける]

式は, 左端より3こま以上あけて書き, 式番号は括弧を付して右端に書く. 数学記号, 単位は, 9ポイント, Times New Roman とし, 数式の書体は, 以下のようにイタリック体にする.

[1行あける]

$$a = b \sin \alpha + c \tan \beta \tag{1}$$

[1行あける]

$$b = \frac{d(e+f)}{g+h} \tag{2}$$

[1行あける]

ここで, a: 液膜の厚さ [mm], .....

\* 責任著者: 正会員, 京都大学 ← 会員資格, 所属を記入  
(〒615-8530 京都府京都市西京区1) ← 住所  
E-mail: ← 責任著者のメールアドレスを記入

分数を書く場合、式(2)のような表記法を用いる。ただし、本文中に記述する場合、 $d(e+f)/(g+h)$ のように書く。

[1行あける]

4. 図、表、式が両段にまたがる場合

[1行あける]

本文、図、表、式、脚注、文献などは、原則として本原稿用紙の1段(片側)に書き、2段(両側)にまたがって書かない。ただし、図、表、または式が1段(片側)に収まらない場合、2段(両段)にまたがって書いてもよいが、この場合、[見本: Table 2]のように当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図表によって中断されないように書く。

[1行以上あける]

- ・図の外枠は表示しない。
- ・図中の文字は英語で表示する。
- ・文字の大きさは9ポイント以上とする。
- ・図番、図題は図の真下中央に英語で書く。
- ・他の文献より転載したときは、図題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

Fig.1 Experimental apparatus

Table 1 Experimental condition

- ・表の外枠は表示しない。
- ・表中の文字は英語で表示する。
- ・文字の大きさは9ポイント以上とする。
- ・表番、表題は表の真上中央に英語で書く。
- ・他の文献より転載した場合、表題の直下に [Reproduced from Ref. (1)] と明記する。

[1行以上あける]

5. おわりに

[1行あける]

以上述べたように、本原稿用紙を用いて執筆する際に最も注意すべき点は、読者が読みやすいように配慮することである。

[1行あける]

文 献

[1行あける]

- (1)京都太郎, 仙台次郎: 液化ブタン噴霧の特性, 微粒化, 10-5(2000), 145-148. ← [和文雑誌]
- (2)Johnson, R., Schmidt, P., Thompson, G.: Characteristics of Entrainment Spray, J. Atomization, 112 (2001), 28-30. ← [英文雑誌]
- (3)今出川一郎: 微粒化機器の設計, 京都書籍(1995), 79-82, 103. ← [和文書籍]
- (4)Smith, T. A.: Mechanism of Atomization, London Pub. Inc. (1993), 34-39. ← [英文書籍]
- .....途中省略.....
- (10)日本微粒化学会編: 微粒化の原理と実際, 同慶出版会 (1991), 11-15. ← [和文書籍]

図、表が2段にわたる場合の書き方は、この例による。

Table 2 Properties of *n*-pentane and *n*-heptane

- ・図、表が2段にわたる場合の書き方は、この例による。
- ・図、表は、当該ページの最下段もしくは最上段に配置し、本文が図、表によって中断されないように書く。
- ・その他は、Fig.1とTable 1に準じる。